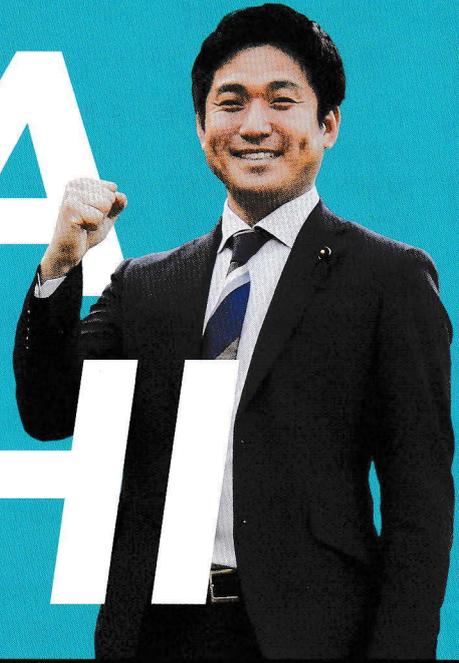


TOBA KIICHI



鳥取県議会議員

とば きいち
鳥羽 喜一

第10回号

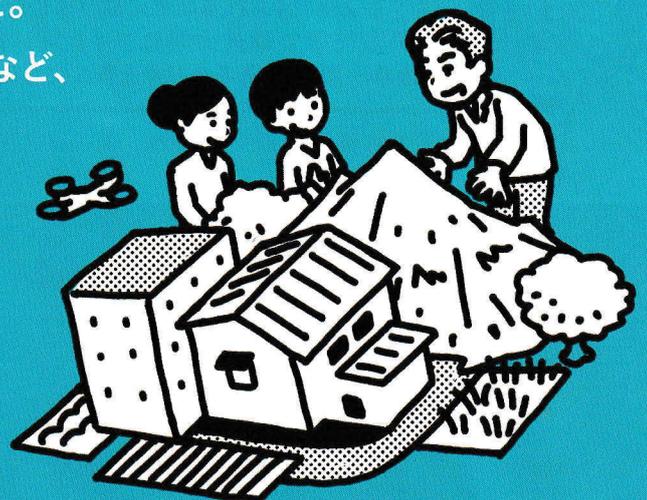
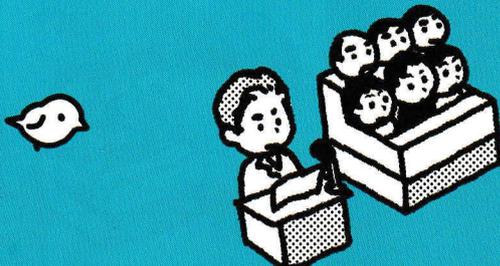
活動報告書

2023年春の統一地方選挙から2年が過ぎ、任期の折り返しを迎えました。
議員活動をここまで続けることができたのは、
地域の皆様の温かいご支援とご指導のおかげです。
心より感謝申し上げます。



高校時代から大切にしている言葉である「素直に謙虚に」という言葉を忘れず、
「倉吉の未来のために」今後も精進してまいります。

この度、第10号活動報告書を作成致しました。
記載内容で気になられることや地域の要望など、
お気軽にご連絡ご相談お待ちしております。



2024年2月議会一般質問

Q 「相撲県」とつとりの推進についての質問

令和の怪物「伯桜鷲」も出場した倉吉青年会議所主管の桜ずもうの存在が本県の相撲文化の興隆に大きく寄与している。

本県として、桜ずもうの実行委員会に入り、桜ずもうを積極的に支援することで、相撲県とつとりを推進していくことは出来ないか？

A 答弁(知事)

桜相撲振興協議会の会長が倉吉市長であるため倉吉市と相談しながらではあるが、桜ずもうの伝統がいい形で引き継がれていくようにしっかりと応援していきたい。

Q 除雪体制についての質問

本県において、車道と歩道が狭く、除雪機で固められた雪で歩道が埋まってしまい、特に通学路においては子ども達が車道を歩かざるを得ず、危険である。県道における除雪のプロセスを工夫したり、通学路の迂回路を設定するなどして、改善をはかることができないか。

A 答弁(知事)

市町村とか教育関係者と議論しながら、スムーズな通学が可能なように環境整備を進めていく。

A 答弁(教育長)

通学路の安全対策については、県警とも連携しながら安全対策連絡協議会を毎年開催している。今後は、迂回路についても議題に挙げて、安全確保に向けた対策がより一層進むように対策を取っていく。

Q 海外大学進学のための奨学金創設についての質問

倉吉東高校においてバカロレアがスタートし、海外大学進学を視野に入れた生徒が増えると思われる。一方で、海外大学の学費はインフレと円安が相まって高騰しており、一般家庭では海外大に行くことが出来ないのではないかと心配の声が上がっている。

バカロレア生のみならず、本県において海外大学進学を希望する生徒に本県独自の奨学金を創設することは出来ないか。

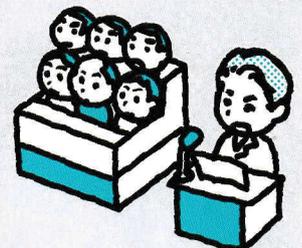
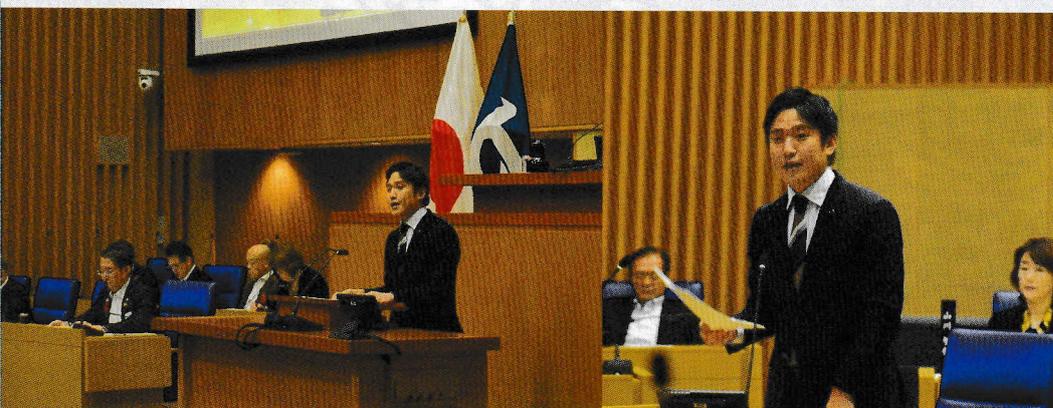
A 答弁(知事)

バカロレア生一期生の卒業年度までまだ時間がある。教育委員会とも相談をしながら、適切にバックアップしていきたい。



実現!

2025年度の当初予算にて、全国でもほぼ例がない、満額1人約1,000万円の海外大学進学のための奨学金が創出されることになりました。この奨学金の創出により、経済的な背景にとらわれず、本人の努力次第で海外大学にチャレンジすることが出来る環境が整ったことで、倉吉東高校のバカロレアがより一層実のあるカリキュラムになることを期待致します。



Q

倉吉東高校の中高一貫計画についての質問

札幌開成高校や高知国際高校といった公立のバカロレアを導入している先進校においては、バカロレアの中高一貫制を敷いており、「日本語で」バカロレア式を学んでおり、「中高一貫 × バカロレア」が最も教育効果が高いと聞いている。本県の高校の再編計画と合わせて、バカロレア中高一貫を実現することは出来ないか。

A

答弁(教育長)

バカロレアにおける中高一貫のメリットは非常に大きく、実際に本県においても検討をされたこともあった。今後の高校の在り方の検討の中で、バカロレアの中高一貫についての研究を進めていく。

2024年6月議会一般質問



Q

人口減少社会における地域作りについての質問

人口減少社会において、これまでのように各市町で部分最適な地域作りをしていくのではなく、東・中・西というユニットの中で、全体最適的地域作りを目指していかなければ、限られた財源の中で持続可能な社会を作っていくことが出来ない。そのうえで、中部ふるさと広域連合に代表される広域団体組織を県としても積極的に支援していくべきではないか。

A

答弁(知事)

人口減少社会において、今までにない行政システムの転換期を迎えており、部分最適と全体最適の考え方をもち地域作りを行っていくということは、非常に重要な提言だ。また、県の人材を市町村や広域団体と共有していく仕組みなどの「市町村と県のハーモニー」が大切だ。広域連合の中で意見がまとまりづらいのであれば、県が一定のリーダーシップを発揮していく必要はあるだろう。

Q

鳥取県立美術館の駐車場不足についての質問

県立美術館のために新しく構築された駐車場は約140台のみで、目標来場者数を考えると心もとない。旧市街地の駐車場と県立美術館を結ぶループバス運行を倉吉市と連携し運行できないか。

A

答弁(知事)

既に倉吉市がループバスの構想があるようなので、鳥取県としてもよく協議して応援させて頂きたい。

実現!

倉吉市が県立美術館開館に伴って、ループバスを運行することになりましたが、その運行費用の一部を県が補助することになりました。旧市街を中心とした観光地の駐車場を繋ぐことで、美術館の駐車場混雑の緩和はもとより、観光地の賑わいが創出されることが期待されます。

Q

教員不足の解決策についての質問

教員不足が叫ばれて久しいが、現在、学校現場から約200名もの多くの教員が教育委員会に異動している。「教育と教育行政は異なる」との声もあり、教育委員会での役割は、必ずしも教員が担わなければならない業務ばかりだけではないとお伺いしている。少しでも多くの教員に現場に向き合ってもらうためにも、教育委員会への教員の異動の緩和を念頭に、他県でも導入されているような教育行政のプロを育成する、教育行政職採用を本県でも導入できないか。

A

答弁(教育長)

プロフェSSIONナルを採用して、その力を学校現場の事務行政に当たっていただくというのは、非常に効果的なやり方の一つであり、検討に値する。





Q 発達に不安を抱える子どもが安心して医療を受けられる体制についての質問

本県では、東・中・西それぞれに発達に不安がある子供の診療を行うために、県立の療育園を設立しているが、倉吉市に位置している中部療育園は、電話がなかなか繋がらず、初診も2カ月先しか受け付けることが出来ていない。厚生病院に常駐の医師がおらず、中部に専門のクリニックが存在しないため、受診者がこの数年で約3倍に跳ね上がっていることが原因と考えられる。厚生病院での受診体制を強化するなどしながら、鳥取大学医学部と協力し、比較的人員に余裕があるとされる西部圏域から他エリアへの医師の派遣頻度を上げるなどして、工夫して診療体制を整えることは出来ないか。

A **答弁(知事)**
副知事を筆頭とした課題整理を行っている所である。見えてきているのは、保育所への保育士の加配に必要な医師の診断書取得のための受診やその診断書の作成の時間が受診の逼迫に繋がっている。また、更なる工夫を今後もさせていただいて、円滑な治療等が受けられるように、体制を強化していく。

答弁(病院管理者)
厚生病院は常勤での脳神経小児科専門医が不在となっている。専門医の人材の確保が困難であり不足しているが、中部の現状を、鳥取大学にしっかりと伝えて、枠をさらに増やすとか、脳神経小児科専門医の常勤を再開するなど要望していく。

Q 医師の診療間の偏在についての質問

発達障がい診療を診察することのできる小児神経科の医師だけでなく、小児科や産婦人科など、少子化によって患者数が急激に減少している分野のクリニックの開業数が減少しており、実際に県中部を中心にその煽りを受けている。県外においても同様の問題が起こっていると承知をしている。少子化による患者数の減少を鑑みた医師の開業への敬遠といったものを考慮した、医師を効率的に配置する医療政策の必要性を、地方から国に対して、積極的に要望していく必要があるのでは。

A **答弁(知事)**
厚生労働省もこの診療間の偏在について課題意識を持っている所であるが、徳島県などの8つの県で連合軍をつくってこの課題に対する是正のために要望活動を行っていく。



Q 労働市場の流動化について（アルムナイ制度※の導入）の質問

日本は新卒一括採用、終身雇用制、総合職採用、企業別労働組合といった日本独特のシステムが複雑に絡み合っており、それが今や一つの日本の文化となっており、今日の日本の労働市場が出来上がっているため、労働市場の流動化というのは一足飛びに進んでいかないと感じている。転職がもっと当たり前になる社会を築いていくために、県庁にアルムナイ制度を導入し、県下の民間の事業所に対しても、このアルムナイ制度を周知していくことで、人材の流動化の素地をつくっていくことは出来ないか。

※一度退職したとしても、再度社員として雇用する制度。いわゆる出戻り採用。

A **答弁(知事)**
県の職員任用規則では、再採用は認められているが、運用はしていない。アルムナイ制度の導入の価値は十分あると思うので、検討していく。

実現!

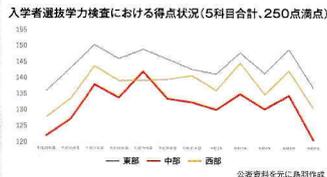
2025年度より、正式に鳥取県庁にアルムナイ制度が導入されました。この動きをみて、倉吉市においても県内の市町村で初めてアルムナイ制度が導入されました。



Q

公立高校の定員割れの中学生の学びの影響についての質問

鳥取県中部において、進学校においても定員割れが数年続いたことにより、中学生の中で特に学びが深化される大切な受験期において、「なんで受験勉強しないといけない?」という会話が飛び交い、勉強に励まない生徒が出ていて関係者から聞いている。また、実際に、高校入試の結果においても地域間で得点状況に差がみられる。改善の余地があるのでは。



A

答弁(教育長)

高校の倍率と学ぶ意欲の影響は、大きいと考える。ただ、それでは定員を狭めればいいのかといった話にも(学校の活力維持を考えると)なりづらい。今後の令和8年以降の高校の在り方でしっかり検討をしていかなければならない。

Q

公立高校の学校統合についての質問

中学生の学びの影響を鑑み、一定の規模を保ちながら適切な倍率を確保していくためにも、この急激な少子化社会においては、鳥取中央育英高校を含む中山間地域に位置する高校や農業等の専門校を除いた、普通科の公立高校の統合を検討していく必要があると考える。

私は倉吉市立成徳小学校と灘手小学校の統合を、卒業生として、地域の住民として、市議会議員として、間近で拝見し、学校を愛する地域の思いの深さというものを痛感した。

学校統合は地域から反対の声が上がる可能性があるが、教育委員会は、この学校統合に対して、どのような覚悟で臨まれるのか。

A

答弁(教育長)

向こう10年で1,500人近い子供たちの数が減ることを思えば、子供たちの学びの環境を考えると適正な規模の維持のためには、どこかで踏み出さねばならない、そういう時期がいよいよ来た、来ているという状況。その意味では、そうした周辺地域の方、関係者の方々への説明等も含めて、私をはじめ、しっかりとした覚悟を持って、臨まねばならないと考えている。

2024年11月議会一般質問



Q

SNSでの誹謗中傷・いじめ対策についての質問

昨今、SNSを介した誹謗中傷やいじめによって、自殺者が出るなど、誰がこのSNSの誹謗中傷の被害者になるか分からない時代に突入している。

本県においても、教育委員会が認知しているだけでも年間50件ほどのSNSを通じた誹謗中傷・いじめが認められており、早急な対応が求められると考える。

A

答弁(教育長)

社会問題として真剣に受け止めなければならない。保護者への働きかけはもちろんのこと、重大事案については、警察・関係機関との連携というの、必要不可欠であるが、相談すべきかどうか難しい判断となる。

答弁(県警本部長)

一義的には教育現場における対応を尊重しつつも、被害児童等の生命身体財産に重大な被害の生じ得るもの、またはその疑いがある事案につきましては、警察としては、犯罪行為として取り扱い、厳正に対処する。スクールサポーター制度によって、ためらわずに警察に相談してもらうよう工夫している。

実現!

2025年2月議会において鳥取県青少年健全育成条例の改正が行われ、SNSの利用にあたっていじめ・誹謗中傷等によって青少年が被害を受けることのないよう、教育長や保護者は努めなければならない旨が明文化されることに繋がりました。



Q

海岸ごみについての質問

鳥取県の海岸は一見綺麗な海岸を保つことが出来ているとつい思ってしまいますが、時期・場所によって、ごみで溢れてしまっている海岸がある。

雄大な自然というものを全国に打ち出していくためにも、海岸の管理者として海岸清掃についての考え方・方針を今一度打ち出し、市町村と足並みを揃えて海岸の美化に努める必要があると考える。

A

答弁(知事)

元々市町村が海岸漂着ゴミの管理の主体であったが、急に法律によって県が責任を負うことになり、市と県の役割分担が明確でない所がある。一度、市町村やボランティア団体等と協議をして今後の在り方を考えていく。

実現!

2025年度、関係市町村等との役割分担を確認した上で、連携を強化し回収処理の効率化等を図るため、県・市町村・ボランティア等で構成する協議会を新たに設置・運営が決まった。

Q

玉川的美観についての質問

倉吉市旧市街を流れる玉川は、県の管理河川であるが、観光地にも拘らず、夏は水草が繁茂しており景観を維持しているとは言い難い。玉川をはじめ、観光地や住宅街などに立地する県管理河川で協議会が立ち上がっている地域については、これまでの「治水」という切り口だけでなく、水草の除去や景観の保全についての対応や、海岸の管理委託のように、市町村に部分的に委託することが出来ないか。

A

答弁(知事)

玉川は、観光地でもあり、都市下水などと役割分担が難しい所。倉吉市とも協議をして、今後の進め方を考えていきたい。

Q

ドローン特区設立についての質問



本県は、とっとりドローン活用推進協議会を立ち上げ、ドローンの産業活用や災害時の活用を積極的に推進しているが、ドローンの積極的な活用・社会実装には、使用できるドローンの型式の制限が厳しかったり、目視できる範囲でしか飛行することが出来ないといった、いくつかのハードルが存在している。宇宙産業の聖地化しているこの鳥取砂丘ナテラスもしくはその他の鳥取砂丘エリアをドローン特区とすることで、宇宙産業創出の取り組みと合わせた本県のドローン活用を推進していくことは出来ないか。

A

答弁(知事)

今後ドローンは、災害対応だけでなく森林組合などのビジネス利用であったり、中山間地域での活用などが見込まれる。鳥取砂丘は観光地であり、飛行物に対して制限を掛けてきた経緯があるため、他のエリアでドローン特区を是非検討していきたい。

2025年2月議会一般質問

Q

外郭団体の評価損についての質問

一部外郭団体が数千万円単位の評価損が出ており、社債への投資やリスク管理のばらつきに懸念がある。資金運用のガイドライン設定や他自治体でも実施されているような一括運用導入を検討するべきでは。

A

答弁(知事)

仰る通りの所が多い。現状は満期償還前提で問題はないが、デフォルト(倒産)のリスクもあり、運用の見直しは必要である。過去の社会問題を踏まえ、リスク管理を強化するため、ガイドライン策定や一括運用の検討を進める。

実現!

外郭団体の基金運用について、今一度点検し、ガイドラインの策定や基金の一括運用に強い前向きな答弁を頂きました。



Q

基金運用についての質問

約800億円に上る基金と歳計現金が超低金利で運用されており、インフレ下では実質的に価値が減少することになる。信用度の高い短期地方債等への分散投資の検討すべきでは。

A

答弁(知事)

地方自治法の制約上、安全性が最優先だが、金利動向を踏まえた見直しを検討する。繰替運用や一時借入の活用可能性も含め、今後の対応を慎重に判断する。

Q

「遙かな町へ」映画化についての質問

漫画「遙かな町へ」の映画化内定を受け、過去に何度も頓挫した企画が遂に、実現することになった。世界的にも評価されている作品であり、県として積極的に支援すべきでは。

A

答弁(知事)

谷口ジロー氏の芸術性が海外で評価された作品であり、フィルムコミッション等を活用し、県としてロケ支援や広報など全面協力し、大輪の花を咲かせたい。



数々の代表作を誇ります
錦織監督メガホンのもとに内定いたしました

2025.03.12(日本海テレビ)

Q

私立高校無償化を受けた対応についての質問

私立高校の無償化が進む中、少子化による公私間の競争が今後更に激化することが予想される。教育委員会と私立高校が本音で語り合う対話の場が必要なのではないか。

A

答弁(教育長)

意見交換の場は既にあるが、より踏み込んだ議論の必要性は認識している。県内の教育課題を共有し、本音で語り合える場の設定に前向きに取り組む。

Q

中高一貫校設立についての質問

私立高校が中高一貫化を進める中、公立でも導入のスピード感が求められる。教育委員会主導での市町村の教育委員会とのより踏み込んだ協議の場が必要ではないか。

A

答弁(教育長)

令和8年度以降の高校計画で中高一貫校の設立を検討している。市町の意見も踏まえながら、具体的な可能性について調査・協議を進めていく。

Q

国外大学進学 of 奨学金創出についての質問

1人当たり満額で約1千万近くの奨学金であり、鳥取県独自の国外大学進学者向け奨学金制度創設に感謝する。単なる書類審査でなく、面接による審査を行い、奨学金が決定した生徒には、帰省の折に報告会を実施するなど、打ち出し方を工夫すべきでは。

A

答弁(知事)

従来型と異なる奨学金として積極的にアピールすべき。PRの工夫や奨学生の協力も得ていきたい。

答弁(教育長)

奨学金の意義を踏まえ、県内学生への発信や情報共有の仕組みを検討する。

実現!

2023年の当選後の初議会から議会や決算審査委員会にて教育委員会に訴え続けてきた、他県でも類をみない国外大学進学 of 奨学金が創出された。



その他の活動



日本で一番資金管理に力を入れている自治体、大分県国東市に視察

2月定例会で、本県の資金管理について質問するため、先進地である国東市を訪問させて頂きました。国東市は専門の人材を雇用し、基金の運用を銀行口座ではなく短期の地方債などに充てることで積極的な運用に成功しており、そのノウハウと考え方を学ぶことが出来ました。本視察をきっかけに、2月議会での質問によって知事の外郭団体についての資金管理における前向きな答弁に繋がりました。今後も、目的を持った視察を心掛けて参ります。



倉吉幼稚園PTA会長に就任させて頂きました

本日の総会で、私の母園でもある倉吉幼稚園にてPTA会長をつとめることになりました。当然ながら、議員として他の園も公平に応援させて頂くことには変わりはないのですが、昨今全国的に議論されているPTAという組織について、百聞は一見にしかず、実際に身をもって体験させて頂く良い機会を頂きました。1人の保護者として、真摯に取り組んで参りたいと思います。写真は、日野園長先生と柴田前会長です。



若手議員意見交換会

鳥取市、米子市、倉吉市で計3回にわたる若手議員意見交換会を実施いたしました。各会、他県からゲストの議員をお呼びし、党派や地域を超えて、互いの市町村の事例を紹介し合うことができ、非常に勉強になりました。今後も、積極的に地域に出ていく議員を続けて参ります。



倉吉総合産業高校の2年生と意見交換会

昨年当選した1期生のメンバーで2年生160人と意見交換をして参りました。若い世代の投票率が極めて低い中、「まずは議員を身近に」という想いでざっくばらんに高校生と意見交換をさせて頂きました。「選挙や政治」というテーマだけでなく、最近の高校生がどのようなことを考えているのか、また学校に対する要望も聞くことが出来ました。



プロフィール

愛児園、倉吉幼稚園、成徳小、
鳥取大学附属中、倉吉東高、早稲田大商学部、
東京海上日動火災保険、リクルート、
慶應義塾大学大学院MBA、倉吉市議会議員



TEL 090-4149-6927



〒682-0886 倉吉市大正町1078-3



kiichi.toba@gmail.com

Facebook、Instagram、X、ホームページでも情報を発信中!



鳥取県議会 録画



Facebook



Instagram



X



きいちブログ

地域作りについての要望がございましたら、鳥羽喜一までお気軽にご相談ください。皆様のご相談をお待ちしております。

